

- ゴール
- 長後駅(西口)
- 1 仙元塚
- 2 長後公園
- 3 豊川稲荷
- 4 長後天満宮
- 5 持田製糸第二工場跡地
- 6 山王神社
- 7 庚申塔
- 8 塩つけ道
- 9 代官山遺跡
- 10 永明寺
- 11 長田稲荷大明神
- 12 長後市民センター・石造物群
- スタート

(距離: 約5km)

モデルルート

長後めぐり その2

長後天満宮コース

長後駅西回をスタートして長後天満宮へ。
桜ボビ、ウバユリ、ヒマワリ、コスモスなど、
花の見どころも満載だ。

山王神社

山王神社は滋賀県大津市坂本の日吉大社の山王信仰に基づき建立され、地域の守護神として祀られた。明治2年(1869)に再建され、伊勢山に祀られていた神明社とともに長後天満宮に合祀された後も、祠の維持や行事が続けられている。

山王神社 解説板

庚申塔

この石碑は仙群前の道は、中世から近代にかけて、横浜六浦の塩を八王子方面へ運んだ塩つけ道。庚申供養塔三基と、坂下の引地川に架けられていた「山谷橋」という石橋の再建供養碑一基があり、道標や三猿像が刻まれている。

塩つけ道 解説板

井上花園

井上花園 解説板

井上果樹園

井上果樹園 解説板

安田果樹園

安田果樹園 解説板

塩つけ道

塩つけ道 解説板

代官山遺跡

代官山遺跡資料室
見学を希望する場合は、
藤沢総合高校までお問合せください。
☎ 0466(45) 5200

代官山遺跡 解説板

永明寺

永和年間(1375~79)清溪通徹禅師の創建。鎌倉円覚寺派の寺にあたる。寛永7年(1630)旗本朝岡泰勝が再建し、享和3年(1803)には甲州電野村円通寺の龍峰和尚が来山して堂宇の修復に尽くした。龍峰和尚は人望が厚く当山中興の祖といわれる。明治6年(1873)に長明学校がこの永明寺に開校された。なお、開山の清溪禅師は中国へ留学し、帰朝後は北朝の光厳天皇の帝師となられた人で、その縁からこの寺の寺紋に菊花を許されたといわれる。また、境内墓地には領主朝岡氏の墓碑がある。

永明寺 解説板

長田稲荷大明神

この稲荷社は天保7年(1836)に井上・安田両家が京都伏見稲荷大社から勧請し、長後の田の守護神として祀られた。明治29年(1896)からは稲荷講が組織され下長後村全体の守護神となった。境内には標石や道祖神像、二十三夜塔、地神塔が残る。

長田稲荷大明神 解説板

長後市民センター

長後市民センターは、昭和31年(1956)に殖産学校を改造し長後支所としてスタートした。これを記念して植樹されたソメイヨシノは、樹高10m、幹周22.5mの古木に成長し、長後のシンボルとして地域の人々に親しまれている。また、同敷地内には、各所から集められた石造物が置かれており、その一基、一基から長後の人々の民俗信仰や生活を偲ぶことができる。

長後市民センター 解説板

石造物群

石造物群 解説板

仙元塚

この塚は宝永4年(1707)富士山噴火の時に田や畑に横こもった火山灰を掃き集めて所々に小高く積みあがったものを塚にした。慶応2年(1866)に富士講の人々によって建設され、3丈(約9m)の高さがあったという。昭和39年(1964)に「仙元百年記念碑」が建てられた。

仙元塚 解説板

持田製糸第二工場跡地

かつて長後天満宮西隣には、明治32年(1899)に創業した持田製糸第二工場があり、最盛期には釜数160・工員200名超の規模で長後の発展に寄与したが、大恐慌や関東大震災、化学繊維の登場で衰退した。

持田製糸第二工場跡地 解説板

長後天満宮

永久年間(1113~17)に秩父六郎基家が秩父から来て長後に城を築き、その城内に菅原道真公を祀ったのがはじまり。江戸時代、寛延4年(1751)に旗本朝岡久兵衛重豊が社殿を再建した。石燈籠は市指定建造物、石造狛犬は市指定有形民俗文化財。お祭りは9月25日。

長後天満宮 解説板

鈴木園

鈴木園 解説板

福島グリーンズ

福島グリーンズ 解説板

岸田果樹園

岸田果樹園 解説板

青木果樹園

青木果樹園 解説板

Aoki果樹園

Aoki果樹園 解説板

恵母地蔵

明和4年(1767)江戸を飢饉が襲い戦死や避難する人々が絶えなかった。ある朝、お百姓さんが、泣き声を聞き裏道に出てみると、凍死した母親の乳房をさぐりながら泣いている赤子がいた。お百姓さんはその子を引き取り、成人させ嫁がせたという。母の息絶えてなお赤子に乳をきませていたいじらしさ、母性愛を村人はあわれに思い、お地蔵さまを造り、恵母地蔵と名付けた。

恵母地蔵 解説板

大日如来

大日如来 解説板

七ツ木神社

鎌倉時代より以前に創建されたと伝えられている。祭神は源義朝を祀る。昔は鯖神社と称したが、明治初年に旧村名をとって七ツ木神社と改称された。白木造りの木目も美しい鳥居をくぐり、石段を登り狛犬を過ぎると銅葺の美しい拝殿がある。お祭りは10月の第1土曜日。この社の鳥居は「両部型」といわれる珍しいものである。

七ツ木神社 解説板

岸田邸長屋門

江戸時代後期、七ツ木村主・岸田三郎兵衛が建築したとされる長屋門。長屋門は、武家のほか主や庄屋など限られた農民だけに建てるのが許され、見張りや来客対応に用いられた格式ある門だった。

岸田邸長屋門 解説板

東勝寺

南北朝時代(1300年代)、秋雄和尚によって創建された。本堂には、阿弥陀如来を安置した臨済宗円覚寺派の寺院である。執権北条高時が鎌倉の東勝寺で自刃果てたのを悼んで、この寺が建てられたともいう。

東勝寺 解説板

果樹・野菜直売所

氏名・園名 電話 販売品目

A 岸田果樹園 (44)3429 梅、梨、ぶどう 他

B 青木果樹園 (44)2467 梨、ぶどう

C Aoki果樹園 (60)2624 梅、梨、ぶどう、柿、栗 他

D 広田果樹園 (44)4843 梨、ぶどう

E 関水園 (44)2248 梨

F 桑山園 (44)2238 梅、梨、ぶどう 他

G 河原園 (46)6484 梨、栗

花

氏名・園名 電話 販売品目

M 岸田緑花園 (44)6358 観葉植物 他

収穫期等は各園にお問い合わせ下さい

*販売品目は主なものです *2025年4月1日現在

- ゴール
- 長後駅(東口)
- 1 花と緑の遊歩道
- 2 岸田邸長屋門
- 3 七ツ木神社
- 4 大日如来
- 5 二十三夜塔
- 6 恵母地蔵
- 7 大山道標
- 8 千束橋跡
- 9 諏訪神社
- 10 双体道祖神
- 11 高倉庚申堂
- 12 大山道と滝山街道
- スタート

(距離: 約5km)

モデルルート

長後めぐり その1

セツ木神社・諏訪神社コース

セツ木神社と諏訪神社を巡るコース。
道端では恵母地蔵や道祖神などがお出迎え。
長後らしい農産物直売所も楽しめる。

諏訪神社

寛永2年(1625)に創建され、祭神は建御名方富神(タケミナカタノミコト)と八坂刀売神(ヤサカトメノカミ)を祀る。境内には昔ながらの末社天神・稲荷・八幡も鎮座し、拝殿内には、江戸時代末から箭泉堂という筆学所(寺子屋)を設け周辺農家の子弟を指導した矢沢保光(玉秀)の武者絵等が掲げられている。お祭りは9月27日に近い前後の土曜日。

諏訪神社 解説板

双体道祖神

双体道祖神 解説板

千束橋跡

千束橋跡 解説板

大山道標

大山道標 解説板

恵母地蔵

明和4年(1767)江戸を飢饉が襲い戦死や避難する人々が絶えなかった。ある朝、お百姓さんが、泣き声を聞き裏道に出てみると、凍死した母親の乳房をさぐりながら泣いている赤子がいた。お百姓さんはその子を引き取り、成人させ嫁がせたという。母の息絶えてなお赤子に乳をきませていたいじらしさ、母性愛を村人はあわれに思い、お地蔵さまを造り、恵母地蔵と名付けた。

恵母地蔵 解説板

大日如来

大日如来 解説板

七ツ木神社

鎌倉時代より以前に創建されたと伝えられている。祭神は源義朝を祀る。昔は鯖神社と称したが、明治初年に旧村名をとって七ツ木神社と改称された。白木造りの木目も美しい鳥居をくぐり、石段を登り狛犬を過ぎると銅葺の美しい拝殿がある。お祭りは10月の第1土曜日。この社の鳥居は「両部型」といわれる珍しいものである。

七ツ木神社 解説板

岸田邸長屋門

江戸時代後期、七ツ木村主・岸田三郎兵衛が建築したとされる長屋門。長屋門は、武家のほか主や庄屋など限られた農民だけに建てるのが許され、見張りや来客対応に用いられた格式ある門だった。

岸田邸長屋門 解説板

東勝寺

南北朝時代(1300年代)、秋雄和尚によって創建された。本堂には、阿弥陀如来を安置した臨済宗円覚寺派の寺院である。執権北条高時が鎌倉の東勝寺で自刃果てたのを悼んで、この寺が建てられたともいう。

東勝寺 解説板

果樹・野菜直売所

氏名・園名 電話 販売品目

A 岸田果樹園 (44)3429 梅、梨、ぶどう 他

B 青木果樹園 (44)2467 梨、ぶどう

C Aoki果樹園 (60)2624 梅、梨、ぶどう、柿、栗 他

D 広田果樹園 (44)4843 梨、ぶどう

E 関水園 (44)2248 梨

F 桑山園 (44)2238 梅、梨、ぶどう 他

G 河原園 (46)6484 梨、栗

花

氏名・園名 電話 販売品目

M 岸田緑花園 (44)6358 観葉植物 他

収穫期等は各園にお問い合わせ下さい

*販売品目は主なものです *2025年4月1日現在